

電源周りのホコリに注意！～たまには掃除しよう～

このところ、立て続けに2件、電源トラブルの相談を受けました。

1件は懇意の不動産屋から。こちらは単に経年による故障と思われます。なにしろ9年もたっているオールドマシンですから。

いきなり電話がかかってきて、

「パソコンがウンともスンともいわなくなっちゃったんだけど、ちょっと見てくれない？」

「えー、コード抜けてんじゃないの？」

「いや、そんなことない。」

「焦げ臭いにおいとかしい？」

「いや、何も臭わない。まあ、急ぎじゃないんで、ついでがあったら寄ってよ」

ってんですが、私、「急ぎじゃない」とか「ついで」とか言われると、十中八九、忘れてしまうんで、すぐに行ってみました。

先方の事務所に着くと、事務機屋さんの営業兼サービスマンまでいましたけど、「お手上げ」って顔をしている。

やあらケースを開けてみたら特に焦げ痕なんかはないんで、(いきなり発火みたいな心配はないな)と内心思いながら電源スイッチを押したら「ウィーン」とファンとハードディスクが回転する音がして、何の問題もなく起動しちゃいました。

件の不動産屋

「おいおい、どんな魔法使ったんだよ」

とびっくり。私もびっくりするやらあきれるやら。

「やっぱり電源コードが抜けてただけなんじゃないの？」

とか何とか言いながら、いったんシャットダウンし、ケースを閉じて再起動しようとする
と今度はウンともスンともいわない(ちなみにOSはWindows 2000)。

「あれー、どうしちゃったんだろう？」

「ほらほら、こういうことなんだよ」

と奴さん、ちょっと得意げ(エラかない)。

私、「あれー、おかしいなあ。」とか何とか言いながら、「これは電源ユニットかマザーボードか、どちらかがおしゃかになった可能性が高い。私の想像じゃ、たぶん電源ユニットだと思う。」ってもっともらしい「現状解説」を(自分にも)しながら、どっちが悪いのかを確かめなきゃパーツの発注もできないんで、これを確かめる方法を考えた。

「よし、臓器移植しよう」

「なに、それ？」

「要するにさ、もう一台のパソコン（もちろん、ちゃんと動いてるやつ）の電源ユニットを、動かなくなったほうのパソコンのマザーボードにつないで、それで動けば、電源ユニットの故障だということがわかるわけでしょ？」

「なるほどね」

ってんで、やってみたら、再び「ウィーン」とファンとハードディスクが回転する音がして、何の問題もなく起動しちゃいました。さっきのこともあるんで、いったんシャットダウンして再起動しても今度はちゃんと起動します。

これはいよいよ電源ユニットが犯人だったんだってことがわかり、あとは私が電源ユニットを調達して、後日、直してあげるってことでめでたしめでたし（ところが、この電源ユニットがちょっと特殊なサイズで、取り寄せに時間がかかりそう。ちなみに、3,500 円ほどで買った）。念のため申し上げておくと、こういう方法は、ショップブランドマシン（販売店が汎用の部品を集め、組み立てて販売しているもの）ならば容易にできますが、メジャーメーカー（富●通とか、N●Cとか）製のものでは、独自設計の部品を使っていて、できないことも多いですから悪しからず。

後で聞いたら、事務機屋さんは「これはもう機械も古いんで、直すよりも新しいのをオススメ」ってんで、12万円ほどの機種を勧めていたらしい。私のせいで売込みができなくなっちゃったんで、ちょっと不機嫌そうでした。

†

2件目は同業者から。

こちらは1件目を解決した後、たまたま先方の事務所にお邪魔したとき、

「先生のパソコンは問題ない？」と気楽に尋ねたら、

「大問題があった」

「何があった？」

「火を噴いた！」

ってんで、こっちのほうが深刻でした。これもたぶん電源ユニットの交換で直せたんだろうけど、すでに購入店に修理に出しちゃったとの事。私の想像では、電源ユニットまわりにホコリが大量に付着して、それが湿気を吸ってショートを起こしてしまい、その結果、火を噴いたと思われる。これは、トラッキング現象といい、結構、火の気がない場所での火災原因としては多いらしい。今回は電源スイッチを入れたとき（＝誰かがその場にいたとき）だったからよかったようなものの、同じ現象がコンセントのところで発生すると、誰もいないときに火災発生ということになりかねず、あわや、事務所全焼ということにもなるところでした。

この現象はホコリがたまることによって発生する事故だから、たまには電源周りのホコリを掃除機で取り除きましょう。できればケースを開けて掃除機を全面にかけたいところですが、ケースを開けてしまうと保証が切れてしまう場合もある（このような場合、ケースを開けるネジがシールで封じられていることが多い）ので、保証が効いているうちは、ケースを開けるのはやめたほうがよいでしょう。この場合でも、排気口に掃除機の吸い込み口を直接あてて、1分程度吸い込み続ければトラッキング現象を起こすほどのホコリはまず残りません。

なお、ケースを開けて掃除機をかけるときは、当たり前のことですが、吸い込み口を部品にぶつけて破損しないように気をつけてください。また、ケースを開けるときには、電源コードを抜いておくことも忘れずに。感電しちゃ大変です。いくらホコリが取れるといっても、パソコンの部品を露出させた状態でナイロン製のホコリ取りなんかを当てるのは絶対禁止です。これをやると、静電気ですべての部品破損を起こす危険性極めて大です（静電気は数万～数十万ボルトの電圧があるので、最高で12V程度での動作を予定しているパソコンのパーツは間違いなく壊れます）。

また、メーカー製のパソコンを修理に出すときは、間違ってもハードディスクのフォーマットはしないように念押ししておいたほうがよいでしょう（たぶん、そんなことやらないだろうけど）。特に、業務用専用ソフトをインストールしているマシンの場合、再インストールしてもらっただけで新しいパソコンを1台買える位の費用がかかる場合があります。ハードディスク自体の故障の場合はそれもやむを得ませんが、このような故障に備えて定期的にバックアップを取っておくことをお勧めします。ちなみに、私は毎日午後6時にバックアップを取っていますが、最初の1回を除き、変更があったファイルだけのバックアップなんで、10分くらいで終わります。